

循環



No.81

2023.1

冬号



最優秀賞

「町をきれいに ポイ捨て禁止」

川西町立中郡小学校 6年

高橋 美羽さん



最優秀賞

「3Rで地球を笑顔にしなければ」

高畠町立高畠中学校 3年

狩野 祐輔さん



一般社団法人

山形県産業資源循環協会

NEW PRIUS



HYBRID REBORN



感性で選ばれる
エモーショナルな
“愛車”へ。

CROWN

新しいクラウン、
はじまる。





CONTENTS

循環



No.81

2023.1
冬号

❁❁❁ 新年のあいさつ ❁❁❁

一般社団法人山形県産業資源循環協会	会長 黒澤 利宏	3
山形県知事	吉村 美栄子	4
山形市長	佐藤 孝弘	5
公益社団法人全国産業資源循環連合会	会長 永井 良一	6

❁❁❁ 特 集 号 ❁❁❁

設立30周年記念式典及び祝賀会の開催等について	7
-------------------------	---

❁❁❁ できごと ❁❁❁

令和4年度やまがた環境展の開催	19
環境大臣表彰受賞・山形県知事表彰受賞報告	22
安全衛生研修会の開催	23
安全衛生モデル事業所 視察報告（株式会社クリーンシステム）	24
山形県災害廃棄物仮置場設置訓練 視察報告	27
スタートアップ研修会の開催	28
中間管理職等研修会の開催	29
令和4年度行政懇談会の開催	30
第72回北海道・東北地域協議会の開催	31

❁❁❁ 行政だより ❁❁❁

山形県	32
山形市	36

❁❁❁ 総合支庁だより ❁❁❁

村山総合支庁環境課	37
最上総合支庁環境課	38
置賜総合支庁環境課	39
庄内総合支庁環境課	41

❁❁❁ 支部だより ❁❁❁

村山支部 事業実施報告	43
最上支部 事業実施報告	45
置賜支部 事業実施報告	47
庄内支部 事業実施報告	48

❁❁❁ 青年部会だより ❁❁❁

全産連青年部協議会カンファレンス・新入部会員の紹介	49
---------------------------	----

❁❁❁ 事務局だより ❁❁❁

マニフェスト頒布価格(会員送料無料)等	50
許可申請に関する講習会等	51
産廃処理Q & A(家電リサイクル)	52
景況動向調査結果(令和4年7-9月期)	53
編集後記	54



新年のごあいさつ

一般社団法人山形県産業資源循環協会

会長 黒澤利宏

明けましておめでとうございます。

昨年中は会員の皆様をはじめ、多くの行政・業界関係者の皆様に、当会の諸事業に対して格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返れば、4月にプラスチック資源循環促進法が施行されたほか、8月には大雨被災による大量の災害廃棄物の処理、そして年末にはカーボンプライシング（炭素課税）に向けた政策の具体化など、当業界にあっては多様な対応と今後の事業展開に向けた適切な準備が求められました。

そんな中、日常生活や経済の循環に不可欠である私ども事業者は、安定的にその業務を継続することが求められております。

しかしながら、多くの課題を抱えていることも事実であり、それは人材の確保、技術の継承、安全確保・労働災害の防止、マニフェスト関連の煩雑な事務手続きなど多様であります。また、近年、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の促進が謳われていますが、動脈側の物流企業などでの実用・商用化は進んでいるものの、静脈側の当業界では、配車や選別、分解、燃焼計画などにおいて独自の条件を詳細に積み上げることが必要なため、なかなか容易ではありません。

今後、私どもは、これら諸課題の解決策となり得る施策を講じるとともに、脱炭素化やSDGs達成などの新たな価値を創出し、持続的に成長していかなければなりません。そのためには、行政にもしっかりと私どもの存在や活動に目を向けていただくとともに、私ども自身も、各々の強みを生かすことはもちろん、相互の協力・連携を前提にした事業の精鋭化や効率化も有効な手段になると考えます。

本年も当会は、“持続的発展が可能な、豊かで美しい山形県”の実現に向けて、寄与、活動してまいりますので、皆様のさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。本年が皆様におかれまして、健やかな一年となることを心より祈念してあいさついたします。



新年のごあいさつ

山形県知事 吉 村 美栄子

一般社団法人山形県産業資源循環協会並びに会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、廃棄物の発生抑制、リサイクル推進、不法投棄防止の啓発活動や不法投棄の原状回復など、県が取り組む循環型社会形成の推進に、格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

特に、昨年8月には、置賜地方を中心にこれまで経験したことの無い大雨に見舞われ、道路などの社会インフラが大きなダメージを受けたほか、家屋の浸水被害などにより大量の廃棄物が発生しました。貴協会会員には早期復旧の鍵となる廃棄物の迅速な処理に御協力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、近年、気候変動による災害の頻発化・激甚化や海洋プラスチックごみによる海洋生物への悪影響などへの懸念から、要因となる温室効果ガスやプラスチックごみの抑制などが、世界規模で取り組むべき喫緊の課題となっています。山形県では、「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言し、この達成に向けて、「第4次山形県環境計画」において「ゼロカーボンへのチャレンジ」をテーマに掲げ、地球環境の保全に積極的に取り組んでいくこととしております。廃棄物については、「第3次山形県循環型社会形成推進計画」において、「全国一ごみの少ない県を目指して」「リサイクル等の循環型産業を振興」「裸足で歩ける庄内海岸」の3つを基本目標に掲げ、資源循環型社会システムの形成や廃棄物の適正処理による環境負荷の低減などの施策に取り組んでいるところです。

これらの取り組みを進めるためには、県民の皆様をはじめ、産業界など、多様な主体の御理解と御協力を得ることが重要ですが、昨年10月には、地球温暖化対策や3Rに関する学び・啓発の場となる「やまがた環境展」を3年ぶりに対面形式で開催することができました。貴協会には、最新の環境技術や環境保全の取り組みなどをわかりやすく発信いただき、産業資源の循環やカーボンニュートラルに対する来場者の理解促進に大きく貢献いただきました。

今後とも県民の快適な生活を保ちつつ、循環型社会形成の実現に向けて、貴協会及び会員の皆様の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。



新年のごあいさつ

山形市長 佐藤 孝弘

新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人山形県産業資源循環協会の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、貴協会の皆様には、長引くコロナ禍の中、感染対策に細心の注意を払われながら、安定した廃棄物の適正かつ継続的な処理を通して、山形市における生活環境の保全と公衆衛生の向上にご尽力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、温暖化の進行とその影響による気候変動などを契機として、地球環境に対する社会の意識が大きく変化し、脱炭素社会・循環型社会への転換に向けた動きが世界的に加速しております。さらに、コロナ禍による物流の混乱や、原油・エネルギー価格の高騰、半導体製品の不足などにより、リサイクルやリユースなど、今ある資源を有効活用する取組への関心が高まっていると捉えております。

山形市では、まちづくりの長期ビジョンとして「健康医療先進都市」「文化創造都市」を掲げ、誰もが安心して心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりを目指し、各般の施策を推進しております。

環境行政においては、長期的な視野に立った今後の環境施策を総合的、計画的に推進するため、令和3年3月に「第4次山形市環境基本計画」を策定いたしました。本計画が目指す「みんなで創る 豊かな自然と笑顔輝く 持続的発展可能なまち」の実現に向け、「脱炭素社会」や「循環型社会」の構築、「自然との共生」、「生活環境の保全」、「環境意識の向上」の5つの基本目標を掲げ、市民や事業者の皆様との連携による廃棄物の発生抑制や資源の再利用化等の各施策に取り組んでいるところです。

こうした施策を着実に推進するためには、貴協会との連携が今後ますます重要になるものと考えております。貴協会の皆様には、「持続的発展可能なまち」への実現に向けて、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人山形県産業資源循環協会のますますのご発展と、今年一年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年になりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



年 頭 所 感

公益社団法人全国産業資源循環連合会

会 長 永 井 良 一

明けましておめでとうございます。

旧年中は、当連合会の諸事業に対し、皆様の多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、資源循環の新たな法制度として制定された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（プラスチック資源循環促進法）が4月に施行され、9月には同法に基づき市区町村による再商品化計画の第一号となる大臣認定が行われました。

プラスチック資源循環促進法は、資源導入や製品設計の段階から廃棄物を出さない経済活動を目指す「循環経済」（サーキュラーエコノミー）の構築を進めようとする法律であり、今後は産業分野や企業規模を問わず、循環経済の導入が経済社会システム全体の主要な課題になるのではないかと考えています。

近年、低炭素とエネルギー転換の促進を背景として、世界的に規模が拡大しているESG（環境・社会・企業統治）投資においても、循環経済が重要なテーマになりつつあると言われています。脱炭素と循環経済を巡るこのような経済分野の動向は、全ての企業活動に大きな影響を及ぼすであろうことは間違いなく、産業廃棄物処理業もその例外ではありません。

当連合会は、産業廃棄物処理業が目指すべき将来像として、「資源・エネルギーをつくり出す産業への展開」をスローガンに掲げておりますが、本業界が低炭素と循環経済を基調とする経済社会づくりに貢献し、資源循環産業として発展していくための努力がますます重要になっていると感じております。

また、資源循環産業を支える人材の育成・確保のあり方や、その人材が安心して働くことができるよう、労働災害の発生を防止するための体制の強化に努めることも大切です。

本年も当連合会は、本業界を取り巻く様々な課題に取り組むとともに、「産業資源の循環的な利用を促進するための産業廃棄物処理産業の振興に関する法律案」の制定に向け、引き続き着実に活動して参りたいと考えています。

皆様の尚一層のご指導、ご鞭撻を頂戴できれば幸に存じます。

本年が皆様にとりまして、健やかな一年となりますようにお祈り致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。



設立30周年特集号

- I 記念式典・祝賀会（令和4年7月15日開催）
- II 広告紙面（山形新聞掲載）
- III 役員紹介
- IV 組織図
- V 協会のあゆみ 平成24年～令和3年（10年間）
- VI 歴代役員



I 記念式典・祝賀会

開催日 令和4年7月15日(金)
会 場 ホテルメトロポリタン山形

第1部 記念式典



全産連関係御来賓



行政関係御来賓



当協会会長
黒澤 利宏



全産連会長
永井 良一 様



山形県環境エネルギー部長
安孫子義浩 様



山形市副市長
高倉 正則 様

次 第

- | | |
|-------|---|
| 開会の辞 | 一般社団法人 山形県産業資源循環協会 副会長 鈴木 隆 |
| 会長式辞 | 一般社団法人 山形県産業資源循環協会 会長 黒澤 利宏 |
| 感謝状贈呈 | 公益社団法人 全国産業資源循環連合会会長感謝状
一般社団法人 山形県産業資源循環協会会長感謝状 |
| 来賓祝辞 | 山形県知事 吉村 美栄子 様
(代読：県環境エネルギー部長 安孫子 義浩 様)
山形市長 佐藤 孝弘 様 (代読：山形市副市長 高倉 正則 様)
公益社団法人 全国産業資源循環連合会 会長 永井 良一 様 |
| 閉会の辞 | 一般社団法人 山形県産業資源循環協会 副会長 青山 武 |

公益社団法人 全国産業資源循環連合会会長感謝状

故 伊 藤 正 志 様 (公益社団法人 全国産業資源循環連合会 元・副会長)
(一般社団法人 山形県産業資源循環協会 前・会 長)

一般社団法人 山形県産業資源循環協会会長感謝状

青 山 豊 様 (一般社団法人 山形県産業資源循環協会 元・副会長)
片 桐 健 悦 様 (一般社団法人 山形県産業資源循環協会 監事)
田 牧 大 祐 様 (一般社団法人 山形県産業資源循環協会 監事)
小 川 瑞 穂 様 (一般社団法人 山形県産業資源循環協会 職員)



写真後列左から 田牧 大祐 様、片桐 健悦 様、小川 瑞穂 様
前列左から 伊藤 泰志 様(故 伊藤 正志 様 代理)、全産連会長 永井 良一 様
当協会会長 黒澤 利宏、青山 武 様(青山 豊 様 代理)

第2部 記念祝賀会



井上実行委員長の挨拶



次 第

開 宴 の 辞	一般社団法人 山形県産業資源循環協会	副会長	大場 宏利
実行委員長挨拶	設立30周年記念事業実行委員会	委員長	井上 尚
乾 杯	公益社団法人 全国産業資源循環連合会		
	北海道・東北地域協議会 会 長	鈴木 昇 様	
		(一般社団法人 宮城県産業資源循環協会 会長)	
祝 宴			
中 締 め	一般社団法人 山形県産業資源循環協会	専務理事	伊藤 泰志
閉 宴 の 辞	一般社団法人 山形県産業資源循環協会	専務理事	丹野 善将

Ⅲ 役員紹介 (現役員 令和4年6月改選後)



会長
黒澤 利宏
テルス株式会社
代表取締役会長



副会長
鈴木 隆
株式会社 クリーンシステム
代表取締役



副会長
青山 武
環清工業株式会社
代表取締役



副会長
大場 宏利
株式会社 大場組
代表取締役



専務理事
伊藤 泰志
株式会社 ミツワ企業
代表取締役



専務理事
丹野 善将
タンノ清掃興業株式会社
代表取締役



専務理事
遠藤 一生
有限会社 厚生社
常務取締役



常務理事
三澤 昌則
一般社団法人 山形県産業資源循環協会
事務局長



理事
丹野 一史
株式会社 丹野
代表取締役社長



理事
小林 洋平
有限会社 ベにばな清掃社
代表取締役



理事
遠藤 正幸
株式会社 山形環境エンジニアリング
代表取締役



理事
村上 由和
株式会社 クレンス興産
代表取締役



理事
井上 洋輔
井上工業株式会社
専務取締役



理事
斎藤 健
株式会社 マルコウ環境
取締役専務



理事
尾形 啓一郎
尾形興業有限公司
代表取締役



理事
佐藤 賢太
長井環境株式会社
取締役



理事
丹治 正彦
東北環境開発株式会社
常務取締役



理事
渡部 元博
株式会社 渡部砂利工業所
代表取締役



理事
佐原 伸児
一般社団法人 山形県建設業協会
専務理事



理事
石川 由美
一般社団法人 山形県医師会
事務局長



理事
太田 宏明
山形県商工会連合会
専務理事



理事
遠藤 昌敏
山形大学大学院理工学研究科
教授



監事
片桐 健悦
天童環境株式会社
代表取締役社長



監事
田牧 大祐
税理士法人 あさひ会計
統括代表社員

30周年記念事業実行委員会

(実行委員長、式典部会長、事業部会長)



実行委員長
井上 尚
(当協会 前・副会長)
井上工業株式会社
代表取締役会長

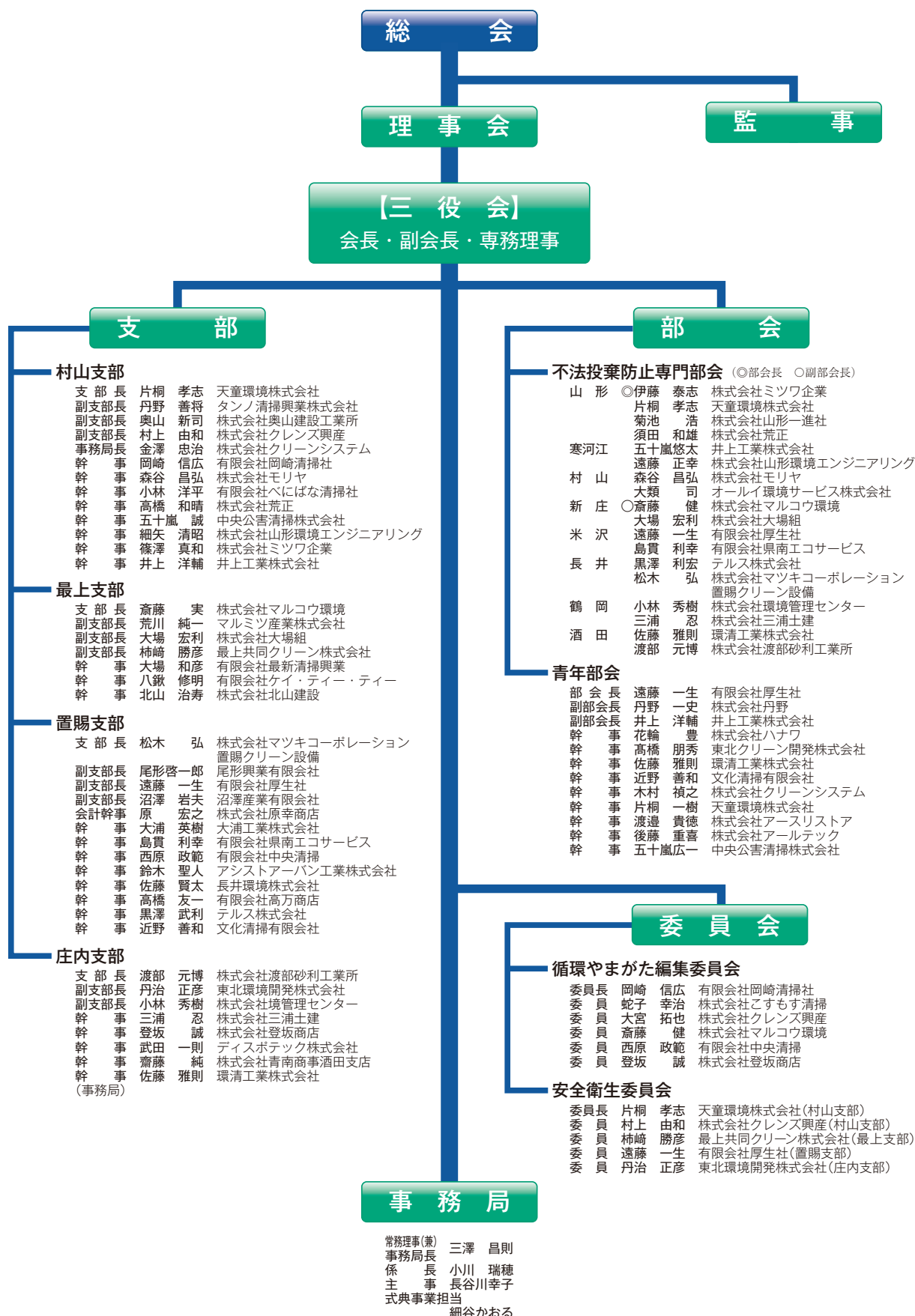


式典部会長
森谷 重美
(当協会 前・副会長)
株式会社 モリヤ
代表取締役会長



事業部会長
鈴木 隆
(当協会 現副会長)
株式会社 クリーンシステム
代表取締役
(再掲)

IV 組 織 図

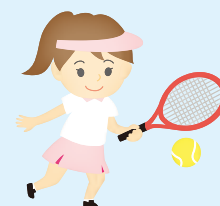


V 協会のあゆみ 平成24年～令和3年（10年間）

	協会内の出来事	国内外の出来事
平成24年度	井上 尚 氏、環境大臣表彰受賞祝賀会の開催 協会設立20周年記念式典の開催・荒川純一氏環境大臣表彰受賞 5月 井上尚専務理事 環境大臣表彰受賞祝賀会の開催 井上 尚氏 環境大臣表彰受賞を祝う会  ホテルメトロポリタン山形にて祝賀会を開催 6月 第41回通常総会 7月 協会設立20周年記念式典・記念講演・記念祝賀会 記念講演 演題 「歩いてきた道、歩いてゆく道、舞台に恋して」 講師 劇作家・演出家・女優 渡辺えり 氏 8月 行政懇談会 9月 トップセミナー 9月 産業廃棄物処理実務者研修会 10月 荒川純一専務理事 環境大臣表彰受賞  全国大会にて環境大臣表彰受賞 10月 やまがた環境展2012 2月 環境・循環型産業交流プラザの開催 2月 不法投棄防止専門部会	●5月 東京スカイツリーオープン ●7月 ロンドンオリンピック開催 ●10月 「日本郵便(株)」設立 ●11月 中国トップに習近平氏 ●12月 自民党政権へ 第二次安倍内閣発足 
平成25年度	社団法人から一般社団法人へ移行 4月 社団法人から一般社団法人へ移行 6月 第1回通常総会 8月 行政懇談会 10月 産業廃棄物適正処理研修会 10月 やまがた環境展2013 12月 トップセミナー 2月 環境・循環型産業交流プラザの開催 2月 不法投棄防止専門部会	●6月 富士山が世界遺産に登録 ●9月 2020年東京オリンピック、パラリンピック開催決定 ●12月 和食の食文化がユネスコ無形文化遺産に登録決定 ●2月 ロシアソチ冬季五輪開催
平成26年度	第4代会長 黒澤利宏 氏 就任 鈴木 隆 氏、山形県知事表彰受賞 6月 第2回通常総会 第4代会長 黒澤利宏氏就任 8月 行政懇談会 9月 産業廃棄物適正処理研修会 9月 産業廃棄物処理実務者研修会  黒澤新会長の挨拶	●4月 消費税8%スタート ●6月 富岡製糸場が世界遺産に登録

	協会内の出来事	国内外の出来事
平成26年度	10月 トップセミナー 10月 やまがた環境展2014 12月 鈴木隆理事知事表彰受賞 2月 環境・循環型産業交流プラザ 2月 不法投棄防止専門部会  三役会送別会にて（H26.7開催） 前列 左より伊藤正志 前会長、青山豊 前副会長 後列 左より鈴木 常務理事、丹野 副会長 細谷事務局、黒澤 新会長 井上 新副会長、荒川 新副会長	●8月 広島市で豪雨災害 土石流などが発生 ●9月 御嶽山が噴火 ●10月 日本人3人がノーベル物理学賞受賞
平成27年度	6月 第3回通常総会 7月 支部長会議 9月 行政懇談会 9月 会員外理事産業廃棄物処理施設見学会  会員外理事による施設見学 9月 産業廃棄物適正処理研修会 10月 やまがた環境展2015 11月 産業廃棄物排出事業者研修会 11月 第1回山形県産業廃棄物税評価検証委員会 1月 第2回山形県産業廃棄物税評価検証委員会 2月 環境・循環型産業交流プラザ 2月 不法投棄防止専門部会	●8月 「廃棄物処理法及び災害対策基本法の一部を改正する法律」が施行される ●9月 安全保障関連法成立 ●9月 ラグビーW杯で日本が歴史的勝利 ●10月 大村智氏、梶田隆章氏ノーベル賞受賞 ●11月 パリ同時多発テロ 
平成28年度	各支部と総合支庁との行政懇談会を開始 6月 第4回通常総会 7月 支部長会議 7月 優良産廃処理業者認定制度普及推進研修会  優良産廃処理業者認定制度普及推進研修会 9月 産業廃棄物排出事業者研修会  産業廃棄物排出事業者研修会	●4月 熊本地方を震源とするM6.5の地震発生 ●5月 伊勢志摩サミット開催 ●5月 オバマ大統領広島訪問 ●8月 リオデジャネイロオリンピック開催 ●10月 大隅良典氏ノーベル賞受賞 

	協会内の出来事	国内外の出来事
平成28年度	9月 行政懇談会 9月 産業廃棄物適正処理推進研修会 10月 循環型産業トップセミナー 11月 やまがた環境展2016 11月 産業廃棄物排出事業者研修会 2月 環境・循環型産業交流プラザ 2月 不法投棄防止専門部会	●1月 ドナルド・トランプ米大統領就任
平成29年度	6月 第5回通常総会 6月 支部長会議 7月 産業廃棄物処理実務者研修会 8月 循環型産業トップセミナー 9月 行政懇談会 10月 やまがた環境展2017 11月 産業廃棄物排出事業者研修会 2月 不法投棄防止専門部会	●6月 中学生棋士 藤井聡太四段が公式戦29連勝の新記録 ●8月 九州北部豪雨で死者・不明41人 ●10月 カズオ・イシグロ氏がノーベル賞受賞 ●12月 中国が廃プラスチックの輸入禁止 ●2月 韓国平昌冬季オリンピック開催
平成30年度	青年部会設立20周年記念式典の開催 6月 第6回通常総会 6月 支部長会議 7月 電子マニフェスト導入実務研修会 7月 産業廃棄物処理実務者研修会 9月 循環型産業トップセミナー 9月 行政懇談会 9月 電子マニフェスト導入実務説明会 10月 やまがた環境展2018 11月 産業廃棄物排出事業者研修会 11月 青年部会設立20周年記念式典・祝賀会   歴代青年部会長への感謝状贈呈 2月 不法投棄防止専門部会	●6月 米朝首脳会議 ●6月 大阪府北部でM6.7の地震 ●7月 7月豪雨災害・広島・岡山などで死者多数 ●9月 北海道胆振地方でM6.7の地震 ●9月 大阪なおみ選手が全米オープンテニスで日本人初優勝 ●9月 インドネシア地震・津波で2千人以上死亡 ●10月 本庶佑氏ノーベル賞受賞

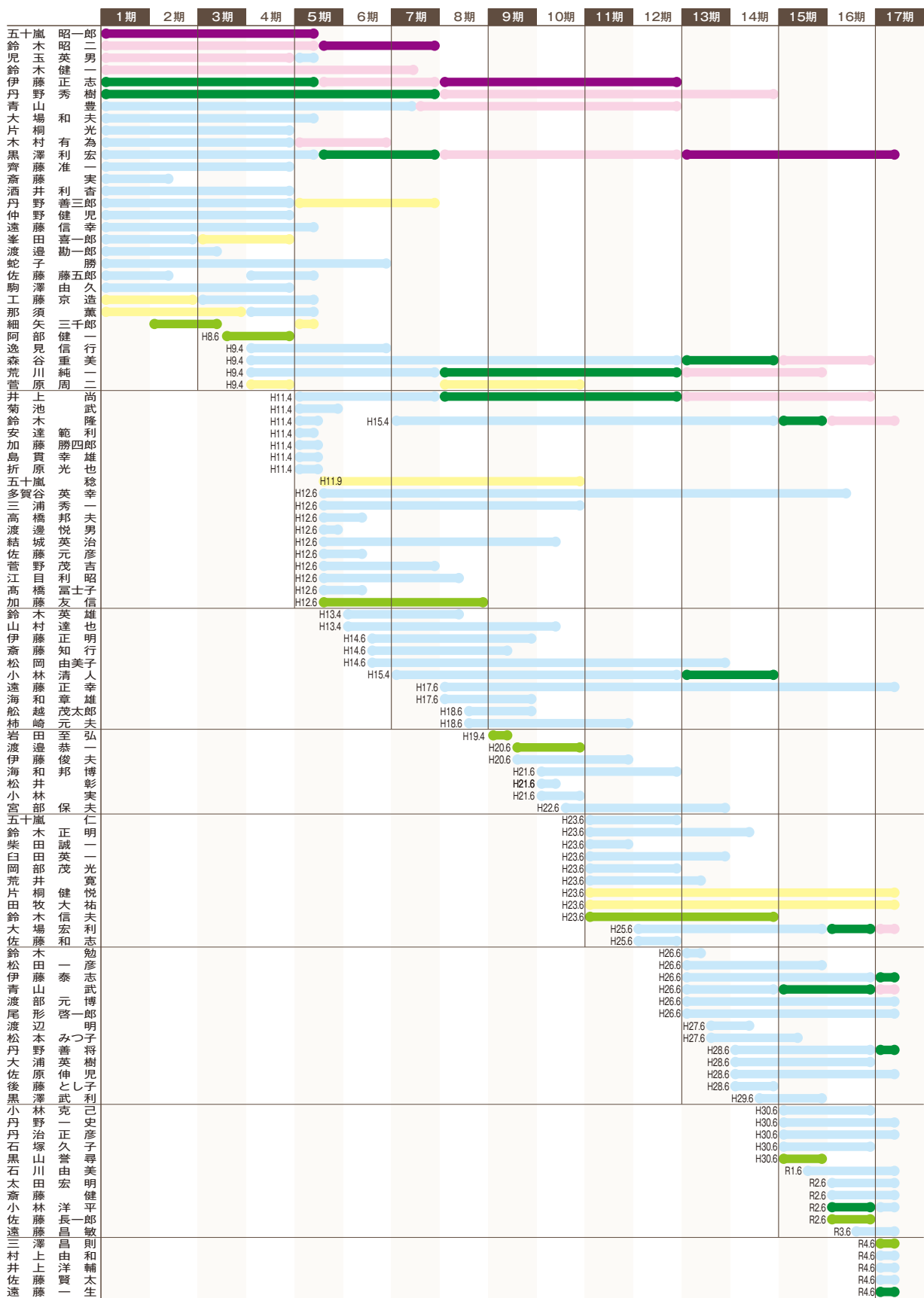


	協会内の出来事	国内外の出来事
平成31年度 ／令和元年度	「一般社団法人山形県産業資源循環協会」に名称変更 山形市中核市移行 山形県沖を震源とする地震の発生 森谷重美 氏、環境大臣表彰受賞 4月 「一般社団法人山形県産業資源循環協会」へ名称変更 4月 山形市が中核市に移行 6月 第7回通常総会 6月 支部長会議 6月 第1回山形県沖を震源とする地震災害廃棄物処理対策会議 7月 第2回山形県沖を震源とする地震災害廃棄物処理対策会議 7月 第1回山形県沖を震源とする地震災害廃棄物処理対策本部会議 9月 産業廃棄物排出事業者研修会 9月 令和元年度山形県循環型産業トップセミナー 9月 行政懇談会 9月 電子マニフェスト導入実務説明会 10月 電子マニフェスト導入実務説明会 10月 令和元年やまがた環境展 11月 電子マニフェスト導入実務説明会 11月 森谷重美副会長 環境大臣表彰受賞  全国大会にて 環境大臣表彰受賞 12月 安全衛生研修会 2月 不法投棄防止専門部	●5月 新元号が令和となる  ●7月 京都アニメーション放火殺人事件 ●9月 台風15号首都圏直撃で甚大な被害 ●10月 消費税10%スタート ●10月 ラグビーWカップ日本開催、初のベスト8 ●10月 吉野彰氏ノーベル賞受賞 ●12月 中国武漢で新型コロナウイルス感染拡大 ●1月 英国、EU離脱 ●3月 東京オリンピック・パラリンピック1年延期
令和2年度	6月 第8回通常総会・臨時理事会 6月 支部長会議 7月 北村山地域等で豪雨水害の発生 9月 令和2年度山形県循環型産業トップセミナー 9月 行政懇談会 10月 産業廃棄物排出事業者研修会 令和2年やまがたオンライン環境展 ～1/31 11月 電子マニフェスト導入実務説明会 12月 第1回山形県産廃税評価検討委員会 1月 第2回山形県産廃税評価検討委員会 2月 不法投棄防止専門部会	●4月～新型コロナウイルス感染拡大 ●3月、8月 甲子園(高校野球)春夏中止 ●7月 九州豪雨死者多数 ●9月 菅首相誕生 ●10月 アニメ映画「鬼滅の刃」最速で興行収入100億円突破 ●12月 「はやぶさ2」カプセル帰還 ●1月 バイデン米大統領就任 ●2月 医療従事者新型コロナウイルスワクチン接種始まる

	協会内の出来事	国内外の出来事
令和3年度	山形県との災害協定の見直し 各支部設立20周年記念式典 6月 第9回通常総会 6月 支部長会議 7月 産業廃棄物適正処理研修会 9月 行政懇談会 9月 令和3年度山形県循環型産業トップセミナー 9月 災害廃棄物の処理に関する研修会 10月 令和3年やまがたハイブリッド環境展 ～1/10 12月 最上支部設立20周年記念式典・記念祝賀会  歴代支部役員への感謝状 12月 庄内支部設立20周年記念式典・記念祝賀会  歴代支部長への感謝状 2月 村山支部設立20周年記念式典  歴代支部長への感謝状 2月 置賜支部設立20周年記念式典  歴代支部長への感謝状 2月 不法投棄防止専門部会	●4月 松山英樹がメジャー（マスターゴルフ）制覇 ●6月 笹生優花がメジャー（全米女子オープン）制覇 ●7月 東京オリンピック開幕 ●8月 東京パラリンピック開幕 ●8月 新型コロナウイルス感染症拡大 ●7～8月 全国各地で豪雨災害発生 ●10月 岸田首相誕生
令和4年度	6月 第10回通常総会 6月 支部長会議 7月 設立30周年記念式典・祝賀会 8月 西置賜地域等で豪雨水害発生 9月 行政懇談会	●4月 「プラスチックに係る資源循環法の促進等に関する法律」の施行



VI 歴代役員



1期(平成4年4月～5年3月) 2期(平成5年4月～7年3月) 3期(平成7年4月～9年3月) 4期(平成9年4月～11年3月) 5期(平成11年4月～13年3月) 6期(平成13年4月～15年3月) 7期(平成15年4月～17年3月) 8期(平成17年4月～19年3月) 9期(平成19年4月～21年3月) 10期(平成21年4月～23年3月) 11期(平成23年4月～24年3月) 12期(平成25年4月～26年総会終結) 13期(平成26年6月～28年総会終結) 14期(平成28年6月～30年総会終結) 15期(平成30年6月～令和2年総会終結) 16期(令和2年6月～4年総会終結) 17期(令和4年6月～6年総会終結)



令和4年度やまがた環境展の開催について



山形県環境エネルギー部循環型社会推進課長 後藤 絵美

(やまがた環境展実行委員会事務局長)

やまがた環境展は、地球温暖化対策や自然との共生、3R（廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用）に関する学び・啓発の場を提供することで、参加者一人ひとりが自らのライフスタイルを見直す契機とし、再生可能エネルギー等に関する理解を深め、循環型社会の形成及びカーボンニュートラルの実現に向けた取組みを推進することを目的として毎年開催しています。

- ・テーマ 「知って学んですぐ行動 みんなでつなぐ環境やまがた」
- ・期 日 令和4年10月15日（土）から10月16日（日）まで 2日間
(延べ来場者数 1万人。一部ブースをYouTube動画で配信中。)
- ・会 場 山形国際交流プラザ「山形ビッグウイング」(山形市)
- ・主 催 やまがた環境展実行委員会(構成団体:山形県、一般社団法人山形県産業資源循環協会等)

当日は、県や一般社団法人山形県産業資源循環協会等の主催団体をはじめ、県内の43の企業・団体が出展し、家庭でできる省エネ、再生可能エネルギー設備、リサイクル認定製品などの展示のほか、普段は乗ることのできないパッカー車の展示や山形大学と連携した3Rワークショップ、学生ボランティアによるカーボンニュートラルに関するワークショップなど体験型企画を実施し、多くの方々に楽しみながら、環境に対する理解を深めていただきました。また、環境省のナッジ・アンバサダーである谷本道哉氏より、「筋肉とエコは裏切らない」をテーマにご講演いただき、好評を博しました。



テープカットの様子



かえっこバザール



EV車を活用した発電とリサイクル製品

やまがた環境展は、平成15年度の「環境産業まつり」に始まり、今回で20回目の開催となりましたが、この間、私たちを取り巻く環境は大きく変容しており、また、環境に対する知識や技術も進歩してきています。これからも、時代に沿ったやまがた環境展を企画運営し、環境保全に関する啓発活動を展開してまいりたいと考えておりますので、皆様方の変わらぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、「令和4年やまがた環境展」の開催に御協力いただいた関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

当協会の出展概要

村山支部と青年部会、山形大学工学部 遠藤研究室（大学院理工学研究科教授 遠藤昌敏 氏／当会理事）の方々より特設ブースの設営にご尽力いただきました。

村山支部と青年部会では、プラスチック等のリサイクル商品や株式会社モリタエコノス様の協力で「地球にやさしいハイブリッドパッカー車」を展示し、廃棄物処理業界における循環型社会の形成や脱炭素への取組みを発信しました。



「地球にやさしいハイブリッドパッカー車」

遠藤研究室には、「親子で楽しむサイエンスとエコロジーの体験」と題し、『ケミカルぬり絵』（化学反応で彩色するぬり絵づくり）や『オリジナルアート』（廃プラ等からの装飾品づくり）、そして『気体CO₂（二酸化炭素）の固定化実験』を学生さんの協力のもとに、ワークショップとして出展いただきました。

各々の出展内容は、「令和4年やまがた環境展」YouTube動画で配信中です。

当会では、引き続き産学連携した取組みを進めてまいります。



親子で楽しむサイエンスとエコロジーの体験

○村山支部の報告

コロナ禍において、「やまがた環境展」はオンラインでの開催が続いておりましたが、今年はコロナ対策を講じながら、3年振りとなる展示ブースや各種イベントなど、規模を縮小しながらも通常通りの開催となりました。

協会ブースではSDGsへの目標達成に向けた各社の取組みをパネルに展示し、特にマテリアルリサイクルやサーマルリサイクルの重要性や発展性を来場者へ説明致しました。

また、当協会 遠藤理事の研究室に未就学児のお子さんから小中学生まで参加可能な「ケミカルぬり絵」「オリジナルアート」などの3Rワークショップを出展頂き、楽しいイベントを通して「環境への取組みやリサイクルへの意識」を高く持って頂くことができた実感しております。

私たち村山支部は「やまがた環境展」を通して、環境問題への取組みや課題など、多くの皆様に関心を持って頂き、環境問題をより身近に感じて頂く広報を続けていきたいと考えております。

株式会社クリーンシステム 金澤 忠治



気体CO₂固定化実験



廃プラ等からの装飾品作り

○青年部会の報告

10月15、16日、山形国際交流プラザにて令和4年やまがた環境展～知って学んですぐ行動 みんなでつなぐ環境やまがた～が開催されました。3年ぶりの対面開催でしたが、10,000人を超える沢山の方々にご来場頂き、各団体、企業様の環境への取組みなどをPRすることができました。

当協会では、沢山の方にご協力を頂き、化学実験を取り入れた体験コーナーやパッカー車の展示、リサイクル工程のパネル展示などを行いました。来場者は環境展での特別な体験を通し、適正な廃棄物処理や環境活動などについて、環境への取組みを知り、学んで頂けたと思います。

我々が住む地球を未来へ繋いでいくため、より多くの皆様に関心を持って頂けるよう、今後も活動を続けていきたいと思ひます。

中央公害清掃株式会社 五十嵐広一



YouTube撮影中



親子にパネルを使って説明



環境大臣表彰・山形県知事表彰 受賞報告



環境大臣表彰

当協会副会長 鈴木 隆 氏（株式会社クリーンシステム代表取締役／本社 山形市）は、令和4年度循環型社会推進功労者環境大臣表彰を受賞されました。

産業廃棄物の適正処理による地域への貢献、東日本大震災により発生したがれきの広域処理への協力、そして当協会役員として全県的な適正処理事業の向上・発展に寄与された功績がたたえられたものです。

表彰状は、令和4年12月27日（火）、山形県環境エネルギー部長室で安孫子義浩部長から伝達されました。



左から、金澤忠一県議会議員、当協会 黒澤利宏会長、鈴木 隆 氏、安孫子義浩部長

山形県知事表彰

当協会理事・庄内支部長 渡部 元博 氏（株式会社渡部砂利工業所 代表取締役／本社 酒田市）は、令和4年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰を受賞されました。

廃棄物の適正処理による環境保全や庄内地域の不法投棄防止啓発活動等への貢献、そして当協会役員、支部長として、当業界の社会的地位の向上に指導的役割を果たしてこられた功績がたたえられたものです。

表彰状は、令和4年11月22日（火）、山形県庁講堂で行われた表彰式で、山形県知事から授与されました。



渡部 元博 氏（前列、右から1人目）



安全衛生研修会の開催について



当協会の「令和4年度労働災害防止計画」に重点実施事項とした『安全衛生規程の整備促進』を進めるため、山形県から受託した循環型産業人材育成等事業を絡めて、当協会安全衛生委員会（委員長 片桐孝志）が企画・開催しました。

- ・日 時 令和4年10月6日（木）13：30から15：30まで
- ・会 場 ホテルメトロポリタン山形（山形市）
- ・テーマ 「安全衛生規程の意義と策定方法」
- ・講 師 中央労働災害防止協会 安全衛生エキスパート 竹田 良二 氏
- ・参加者 33社、44人（内訳：会場27人、Web17人）

昨年度、当協会での安全衛生規程を策定済み又は策定予定の会員数は43社。（調査回答中、27％）。今年度は、この数値の5％アップ（43会員×5％増=46会員）を計画目標として取り組んだものです。

冒頭、当協会 黒澤利宏 会長は「本業界は、社会インフラの重要な役割を担う存在であり、その業務を安全・確実に遂行することが必須の責務。」と挨拶し、続いて片桐委員長は「受講内容を現場に反映され、労働災害の防止に努めるとともに、私ども企業の社会的信頼を一層向上させるために安全衛生規程の整備は必須。」と挨拶しました。

講師の竹田良二 氏は、労働災害と事業者の責任、そして安全衛生規程の策定手順や留意点などについて、全産連発行資料（「産業廃棄物処理業におけるモデル安全衛生管理規程及び解説」）等を活用しながら講義され、今後の各企業における規程整備に向けた個別指導まで説明くださいました。



当協会 黒澤会長



安全衛生委員会 片桐委員長



中央労働災害防止協会
安全衛生エキスパート 竹田 良二 氏



「新たな視点と惜しまぬ努力 みんなで目指すゼロ災害」

株式会社クリーンシステムにおける取り組み

当協会安全衛生委員会（委員長 片桐孝志）では、令和4年11月1日、「株式会社クリーンシステム」を安全衛生モデル事業所として視察しました。

当日、現地では、同社 鈴木 隆 代表取締役（当協会副会長）から、「安全への取り組みに終わりは無い。参考になるものは使って欲しい。」とのご挨拶を頂戴した後、同社の衛生管理者を務める加藤健一 生産部次長や副安全管理者の塩野昌俊 同部サブマネージャーから労働安全への取組事例等を説明いただき、佐藤彰史 生産部長等のご案内で場内各処理施設を回りました。

安全衛生規程等の整備や明確な安全衛生組織体制の下、自社の中長期環境経営目標等に物損事故10件／年以下、労災人災ゼロを掲げ、安全担当者による安全パトロールをほぼ毎日行うほか、社内安全衛生委員会のパトロールを月1回実施するなどして、労働安全衛生への取り組みの徹底に力を入れる同社には、多くの参考事例がありましたので紹介します。

今後、安全衛生委員会は、今回の視察成果を参考に、次年度の当協会労働災害防止計画の策定等を進めてまいります。



視察先 株式会社クリーンシステム 代表取締役 鈴木 隆

・所在地 山形市飯塚町（本社） ※他に関東支店（千葉県柏市）等あり
・業務内容 廃棄物リサイクル、廃棄物収集運搬、リサイクル型解体 等
・従業員数 122人（R4.4.1 現在）
・所有車両 収集運搬車両39台（R4.3 末現在）
／R3年度産廃収集運搬実績35,370t

・処理施設 木くず破砕、廃プラ類等選別・破砕・減容固化 等
／R3年度産廃中間処理実績（本社）58,266t⇒内リサイクル率86.8%
・事業認定 優良産廃処理業者認定、エコアクション21認証、山形県環境学習
支援団体認定

参考事例1 社内意識の向上・改革

1 年間スローガンや労働安全への提案募集

従業員より、年間と季節ごとの安全スローガンを募集して社内掲示しているほか、労働安全への環境改善提案を募り、実践することで、労働安全意識の高揚等につなげている。

＊ 2022 年度年間安全スローガン

『新たな視点と惜しまぬ努力
みんなで目指すゼロ災害』

＊ 2022 年度冬季安全スローガン

『安全に 近道 抜け道妥協なし
ゆっくり走ろう冬の道』

改善提案の実践・場内カーブミラーの設置



改善前



⇒ 改善後

2 安全カメラ設置による意識改革と画像によるヒヤリハット場面の認識拡大

処理施設内要所に安全カメラを設置することで、作業安全徹底への意識改革が図られたほか、過重労働の防止にもつながった。さらにヒヤリハット場面を写真化することで、ヒヤリハット場面の現場認識の拡大と、報告書作成の効率化にもつながっている。

参考事例2 RKY(リスク危険予防)の実践

1 指差し呼称の完全実施と RKY 活動表の活用

有効な安全のアイテムである“指差し呼称”の完全実施と、RKY活動表を活用し、作業側へのリスク対策だけでなく、事業者側が取り組むべき根本的なリスクの解消につなげている。



2 安全啓発キャラクター「ヒヤリハット君」とステッカーの活用

自社オリジナル安全啓発キャラクター「ヒヤリハット君」のステッカーや各作業箇所特有の注意喚起ステッカーを、RKYの視点を絡め効果的に貼付している。



参考事例3 働きやすい職場環境の整備

1 飛散防止への取り組み

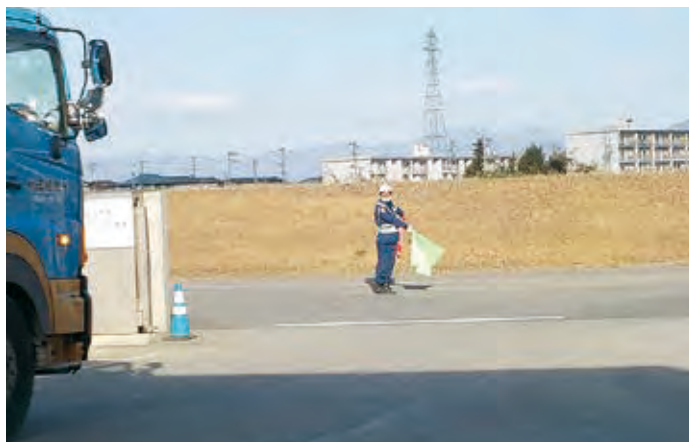
粉塵の発生が懸念される作業箇所で、地下水を利用したミスト散布や路上散水等を行うことで飛散を防止するとともに、夏場の熱中症予防にも効果を発揮している。



2 交通誘導員の配置と利用しやすい外部トイレの設置

搬入・搬出車両出入口付近の安全確保のため、交通誘導員を配置している。

受付・管理棟の外部に男女別のトイレを設け、屋外作業員や外部からの搬入業者等も利用しやすい環境を整備している。



【施設等で説明を受ける当協会安全衛生委員会メンバー】



安全衛生委員会メンバー

委員長	片桐孝志 (天童環境株式会社 代表取締役副社長)
委員	村上由和 (株式会社クレンス興産 代表取締役)
委員	柿崎勝彦 (最上共同クリーン株式会社 代表取締役社長)
	※代理視察 梁瀬伸祐 (同社 常務取締役)
委員	遠藤一生 (有限会社厚生社 常務取締役)
委員	丹治正彦 (東北環境開発株式会社 常務取締役)



山形県災害廃棄物仮置場設置訓練 視察報告



近年、災害は頻発化・激甚化しており、本県でも令和4年8月3日から大雨で多くの市町村が被災しました。山形県と災害廃棄物の処理に関する支援協定を締結している当協会では、県が主管したこの度の訓練に会員企業が協力したほか、今後の迅速、かつ的確な支援対応のため、村山支部（支部長 片桐孝志）のメンバーなどが視察に入りました。

- ・日 時 令和4年10月18日（火）
- ・場 所 大江町中央公民館
- ・主 催 山形県、大江町、西村山広域行政事務組合
- ・協 力 寒河江地区衛生協議会
- ・講 師 石坂広徳 氏（有価物回収協業組合 石坂グループ 本部長／本社工場 熊本市）
金子靖輝 氏（一般社団法人 日本災害対応システムズ 事務局長）
- ・視察者（総勢約50人（県内市町村・関係機関団体職員））
 - 村山支部 支 部 長 片桐孝志（天童環境株式会社 代表取締役副社長）
 - （同） 副支部長 村上由和（株式会社クレンズ興産 代表取締役）
 - （同） 幹 事 井上洋輔（井上工業株式会社 専務取締役）
 - 青年部会副部会長（代）高橋 健（株式会社丹野 取締役事業部長）
 - 常務理事兼事務局長 三澤昌則

概 要

公民館駐車場を仮置場に見立て、①燃やせるごみ ②燃やせないごみ ③粗大ごみ ④畳 ⑤家電の集積区分を設け、廃棄物を積んだトラックの搬入受付から、分別・荷下ろしまでの手順、要点を実動訓練し、その後、持ち込まれた廃棄物搬出のための動線確認などが行われました。



石坂講師は、熊本県や広島県での豪雨災害による仮置場を担当された経験から、搬入車を渋滞させないことも被災者への大切な配慮で、単品での持ち込みか、複合品かで誘導順序や動線を変更することも有効と説明されたほか、被災家財の持ち込みが落ち着くと、次に、倒壊した建物建材などの持ち込みが始まる。それまでには仮置場を一度整理できるよう、搬出作業を並行することが望ましいとも述べられました。





スタートアップ(新人・若手実務者)研修会の開催について



令和4年11月4日(金)、ほほえみの宿 滝の湯(天童市)において、スタートアップ研修会を開催しました。

本研修会は、会員企業における入社5年目程度までの実務者を対象とし、青年部会からの協力を得て開催したものです。初めての試みとなりましたが、予定していた人数を超える参加をいただきました。

名刺交換や電話対応などビジネスマナーの再認識を促す体験学習、廃棄物の分類や罰則規定の実例紹介や県の施策に伴う補助金制度の説明を通じて、改めて自身の業務内容を見直す良い機会となったようです。

中小企業の多い産廃処理業界では、自社研修等を容易に実施できないことがあるため、今回の研修会を望んでいた会員企業も多く、参加者からは毎年開催を求める声が寄せられるなど、たいへん有意義な研修会となりました。

- ・日 時 令和4年11月4日(金)
- ・会 場 ほほえみの宿 滝の湯(天童市)
- ・参加者 32人
- ・内 容 第1部 10:10～12:00
「プロとしての基本の再確認とスキルアップ」
〔講師〕山形銀行 営業支援部 地域振興推進室
くらしと経営の相談所 調査役 安達 智宏 氏



名刺交換のロールプレイング演習(左側・安達講師)



- 第2部 13:00～14:30
「廃棄物処理法入門／基礎知識、排出者の責務概要」
〔講師〕BUN環境課題研修事務所 主宰 長岡 文明 氏
- 第3部 14:45～15:30
「産業廃棄物処理に関する行政施策」
〔講師〕山形県環境エネルギー部

循環型社会推進課 課長補佐(廃棄物対策担当) 大久保 剛 氏



中間管理職等研修会の開催について



令和4年11月28日（月）、ヒルズサンピア山形（山形市）において、山形県からの受託事業の中間管理職等研修会を開催しました。

本研修会は、産業廃棄物の適正処理と3Rの推進、社会インフラとして重要な役割を担う本業界の社会的地位向上を図ることを目的に、現場のリーダー的役割を担う中間管理職等の方を対象にして開催しました。

講師は、昨年に引き続き 経営コンサルタントの大野 勉 氏を招き、中間管理職に求められているものは何か、組織で仕事をするということはどういうことかについて、具体例を交えてご講演いただきました。

参加者からは、「仕事ができることと部下を育てることの違いが分かった」「業務の流れを整理することの大切さを実感した」「研修内容を今後の業務で実践したい」等の声が寄せられ、管理職の役割や重要性を改めて理解するたいへん良い機会となったようです。

- ・日 時 令和4年11月28日（月）13：30から15：30まで
- ・会 場 ヒルズサンピア山形（山形市）
- ・参加者 39人
- ・テーマ 「管理者に求められている事 ～組織で仕事をする～」
- ・講 師 経営コンサルタント 大野 勉 氏



経営コンサルタント 大野 勉 氏





令和4年度 行政懇談会の開催について



当協会における廃棄物行政への一層の貢献と景況動向等を踏まえた上での支援要望のため、県担当課との行政懇談会を開催しました。

- 日 時 令和4年9月5日（月）
- 会 場 山形県建設会館（山形市）
- 出席者

・山形県環境エネルギー部 循環型社会推進課

課 長 後藤絵美 氏、 廃棄物対策主幹 前田 学 氏 ほか

・当協会幹部

会 長 黒澤利宏

副 会 長 鈴木 隆、 同左 青山 武、 同左 大場宏利

専務理事 伊藤泰志、 同左 丹野善将、 同左 遠藤一生 ほか

冒頭、当協会 黒澤会長は「当業界においては、長年の課題である“社会インフラとして重要な産業廃棄物処理業界の社会的地位の向上”はもちろん、コロナの感染拡大等、多様な社会動向の中にあって、幾多の新たな課題があがっている。課題解決に向けた現場の声として、意見や要望を述べさせていただく。」と挨拶。県 後藤課長は「産業廃棄物処理業界における課題など、皆様の生の声をお聞きして、今後の県施策に反映できればと考えている。」と挨拶した。

－ 山形県産業資源循環協会から県への意見・要望 －

1 令和5年度予算に向けて

(1) 適正処理の効率化等への支援

- ①既・3R研究開発・施設整備事業費補助金の拡充
- ②カーボンニュートラルやまがた県民運動の普及促進

(2) 人材の確保と育成への支援

- ①産廃処理業従事者資質向上セミナー（当協会受託事業）の拡充
- ②キャリア形成の促進
- ③女性就業環境の整備

(3) 安全な業務遂行への支援

2 循環型社会形成への施策等について

- ①優良産業廃棄物処理業者認定制度におけるインセンティブの付加
- ②プラスチックリサイクル率向上への対応
- ③最終処分場の計画的管理

3 その他

- ①災害廃棄物処理に関する役割の再整理（市町村を絡めての整理）
- ②コロナ禍における原油価格・物価高騰等への支援
- ③廃棄物業界業務にかかる行政側のDX化推進への取り組み



公益社団法人全国産業資源循環連合会

第72回 北海道・東北地域協議会の開催について



公益社団法人全国産業資源循環連合会（全産連）のブロック組織である北海道・東北地域協議会は、毎年春と秋に各道県持ち回りで開催され、地域に共通の課題や全産連への提案事項などについて協議や意見・情報交換を行っています。

令和4年秋の協議会は、次のとおり開催されました。

1 期日等

- ・期日 令和4年10月19日（水）
- ・場所 秋田市内

2 内 容

(1) 審 議

「廃棄物処理法における欠格要件について」（提案 青森県協会）

当地域協議会から全国産業資源循環連合会宛てに、廃棄物処理法上の欠格要件見直しを求める要望書の提出が決議されました。

内容は、産業廃棄物処理業に直接関与しない法令違反や刑事罰であっても、企業役員に該当者があれば産廃許可を取り消すという現・同法の規定は、現状にそぐわない。

ついては、当該内容を見直して欲しい旨の要望書を、北海道・東北地域協議会会長（宮城県 鈴木会長）名で全国産業資源循環連合会 永井会長に提出することとなったものです。

(2) 情報交換

「災害廃棄物の処理等に関する協定」の市町村との締結状況について

各道県の状況は次のとおり。岩手県協会では、市町村からの強い要請を受け、県内33全市町村との協定締結を今年度内に終了予定とのこと。来賓出席された永井会長は「県の仲介等によるタイムロスは、最終的に私ども現場作業での負担増となる。各協会は積極的に市町村との協定締結を進めるべき。」と意見されました。

各協会の市町村との締結状況（全道県協会とも各々の道・県とは協定締結済み）

- 北海道協会 5市と締結済み（協会3市（札幌、函館、旭川）、支部2市）
- 青森県協会 なし
- 岩手県協会 33全市町村と今年度内締結予定

東日本大震災（2011年3月）を経て、各市町村から締結への要請あり。

- 秋田県協会 なし
- 宮城県協会 1市（仙台市）と支部が締結済み
- 福島県協会 なし
- 山形県協会 なし



山形県からのお知らせ

(担当：環境エネルギー部 循環型社会推進課 Tel 023-630-3021)

◎外食時等の「おいしい食べきり」キャンペーンを実施しています

日本での食品ロス（まだ食べられるのに廃棄されている食品）は、1人1日当たりお茶碗およそ約1杯分（約113グラム）、1年間で約522万トンとされています。（農林水産省・環境省「令和2年度推計」より）

食品ロスは、食品の生産や流通に要したエネルギーを無駄にするだけでなく、廃棄の際には運搬や焼却で余分な二酸化炭素（CO2）を排出することになるため、環境面からもその発生を抑制していくことは大切です。

食品ロス削減を目的として活動している「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」では、年末年始の会食の多い時期に「おいしい食べきり」全国共同キャンペーンを実施しています。本県も当キャンペーンに参加し、12月から翌年1月までの期間に、「おいしく残さず食べきろう！」をキャッチフレーズとして啓発を行っております。

ごみゼロやまがた推進県民会議の構成団体である山形県産業資源循環協会、会員企業及び従業員の皆様にも、外食時や家庭での食べきりについて御協力いただきたくお願いいたします。



もったいない! みんなで減らそう! 「食品ロス」

食品ロスって?

食べ残しや売れ残り、賞味期限切れなどの理由で、食品が食べられるのに捨てられてしまうことを食品ロスといいます。

私たちの生活に どんな影響があるの?

食品ロスは、次のような負担や負荷を招き課題となっています。

- ① 食品関連事業者や消費者の負担増
生産や流通に要したエネルギーが無駄に
売れ残りや食べ残し分の余計な出費等
- ② 廃棄時のごみ処理費用の負担増、環境への負荷
運搬や焼却にかかる費用が発生し、余分なCO₂も排出



食品ロスを減らす取組みをご紹介します



家庭編

① 上手な買い物ポイント

- ・買い物前は冷蔵庫や食品庫をチェック! 余っていたり、買い置きしている食材が無いかを確認しましょう。
- ・買う際は、まとめ買いを避け、必要な分だけを買うように心がけましょう。
- ・すぐに食べるものは、陳列棚の手前から取る「てまえどり」で期限の近い商品を取りましょう。
- ・余ってしまった食品は、フードバンクなどに寄付してみましょう。

② 食材は使いきろう

- ・残っている食材から優先して使い、無駄にしないようにしましょう。
- ・賞味期限※が過ぎてもすぐに捨てず、料理に活用しましょう。



※おいしく食べることができる期限。過ぎてもすぐに食べられなくなるわけでは
ありませんので、見た目や、臭いなどから食べられるか判断しましょう。

③ 作り過ぎに注意!

- ・体調や健康、家族の予定も考えて、食べきれぬ量を作り、おいしく残さず食べましょう。
- ・残った料理は、お弁当用に保存したり、環境にやさしい料理レシピに挑戦して、無駄なく活用しましょう。

環境にやさしい料理レシピ

県では、食材を無駄なく使う料理や余った料理を生かしたリメイク料理など、食品ロス削減につながるレシピコンテストを実施し、入賞レシピを県ホームページ(右のQRコード)のほか、人気料理レシピサイト「クックパッド」でも公開しています。



外食編

① 食品ロス削減に取り組むお店を選びましょう

県では、食品ロス削減に取り組む飲食店や宿泊施設等を「もったいない山形協力店」として県ホームページで紹介しています。ぜひ積極的にご利用ください!



② 注文する時は

自分の食欲や体調に応じて、小盛りやハーフサイズメニューなども検討し、食べられる分だけ注文しましょう。

③ 食事では

- ・注文した料理は残さず、おいしく食べきりましょう。
- ・食べきれない場合は、お店の方に確認して、自宅に持ち帰りましょう。
- ・食べ放題のお店では、元を取ろうと、無理して皿に盛ったり、食べ残したりしないようにしましょう。

④ 宴会では

- ・幹事さんは参加者の好みや年齢層などを考えて食べられるメニューを選びましょう。
- ・30・10運動などのおいしい食べきり運動を実践して、食品ロスを減らしましょう。

30・10(さんまる・いちまる)運動

- ① 待つタイム: 乾杯後30分間は料理を楽しむ
 - ② お楽しみタイム: 料理を食べながら、親睦を深める
 - ③ 食べきりタイム: ラスト10分間はもう一度料理を楽しむ
- ※幹事さんは「おいしく食べきろう!」と呼びかけましょう

※新型コロナウイルス感染拡大防止の取組みの徹底に留意しましょう

少し意識するだけでも食品ロスを減らすことができます。一人ひとりができることから取り組みましょう!



山形県環境エネルギー一部循環型社会推進課

山形県 食品ロス削減

検索



PCB使用安定器の処分期限まで残りわずか！

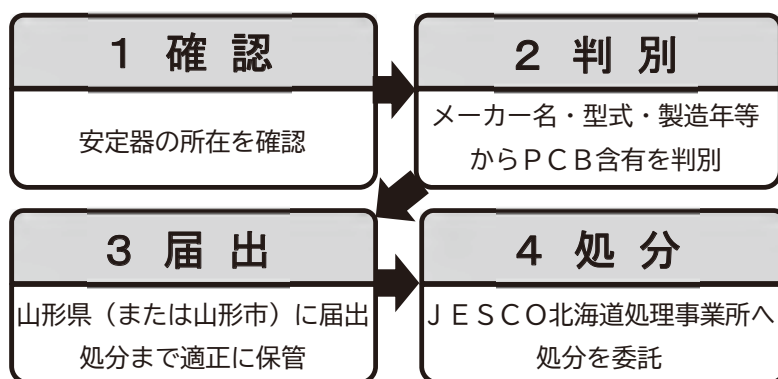
～古い照明器具がある場合はすぐに確認をお願いします～

PCBが使われている可能性がある照明器具

昭和52年3月以前に建築された、工場、農家の作業小屋、納屋、ビル、マンションやアパート等の共同住宅の共用部、倉庫等に設置されている業務用蛍光灯に付属する安定器にはPCBが使用されている可能性があります。



確認から処分までの手順



詳しい情報は山形県
HPで公開しています

「PCB 廃棄物（PCB 使用製品）
の適正処理について」



PCB 使用安定器は、PCB 特別措置法により期間内の処分が義務付けられています

処分期間は**令和5年3月31日まで**

- ※ 中小企業者や個人等が処分を行う場合には費用の軽減制度が適用されます。（適用条件があり契約前に申請が必要です）
- ※ 期間内に処分を委託しなかった場合には罰則が科されることもあります。処分へのご理解・ご協力をお願いします。

■ PCB 使用安定器かどうかの判別方法

製造から 40 年以上が経過する PCB 使用安定器が、劣化して破裂し、PCB が漏えいする事故が発生しています。このような事故は一度調査して PCB 使用安定器が存在しないとされた建物でも起きています。サンプル調査を行ったことが原因と考えられますので全数調査を行うようにしてください。

漏洩した PCB が人体にかかる危険性がありますので昭和 52 年（1977 年）3 月までに建築・改修された建物で古い安定器が使用されていないか速やかに確認し、見つかった場合は取り外して交換してください。

昭和 32 年（1957 年）1 月から昭和 47 年（1972 年）8 月までに国内で製造された照明器具の安定器には、PCB が使用されたものがあります。なお、一般家庭用の蛍光灯などの安定器には PCB が使用されたものではありません。

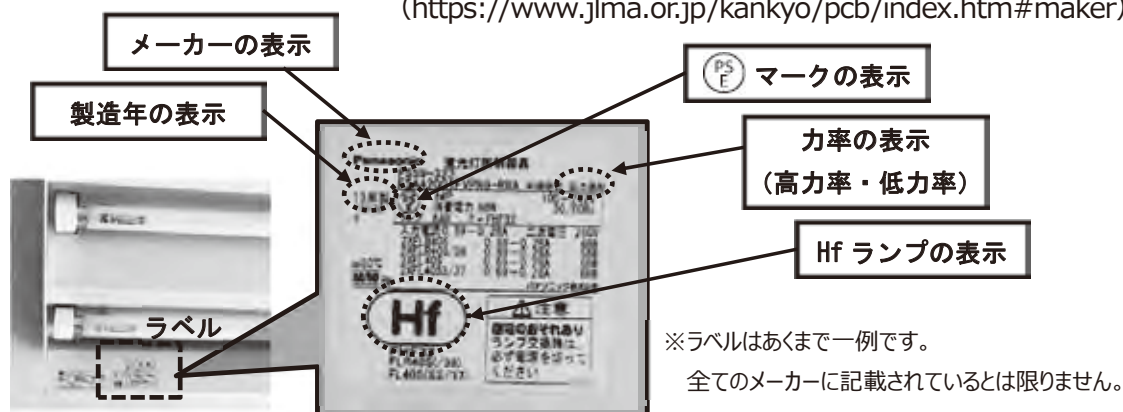
PCB を含有する安定器は、安定器に貼付された銘板に記載されているメーカー、型式・種別、性能（力率）、製造年月などの情報から判別することができますので詳細は各メーカーに問い合わせるか、（一社）日本照明工業会のホームページを参照してください。

■ 照明器具のラベル調査

照明器具のラベルからメーカー・種類・力率・製造年などから PCB 含有の有無を判別できますが、メーカー名が判別できた場合は、必ずメーカーへ問い合わせ確認してください。

メーカーの問合せ先は、（一社）日本照明工業会のホームページを参照してください。

(<https://www.jlma.or.jp/kankyo/pcb/index.htm#maker>)



以下に当てはまれば PCB は使用されておられません

- 製造年が昭和 48 年（1973 年）以降
- 低力率型（力率が 85% 未満）
- Hf ランプの表示がある
- PS マークの表示がある

■ 安定器の銘板調査

照明器具のラベルによる判別が困難な場合には、照明カバー、反射板などを取外し、安定器の銘板の記載内容を確認し、各メーカーに問い合わせるか、（一社）日本照明工業会のホームページを参照してください。



照明器具カバー、反射板などを取外す



安定器が見える



安定器の銘板を確認

調査により PCB 使用安定器を発見したら

建物が所在する地域を管轄する総合支庁環境課（山形市内は山形市廃棄物指導課）へご連絡をお願いいたします。早急な処理手続きについてご案内いたします。

山形市からのお知らせ

(担当：環境部 廃棄物指導課 Tel 023-641-1212)

◎山形市内で不法投棄された廃棄物の原状回復事業を行いました

本年度は新規発見事案 4 か所と昨年度からの継続事案 1 か所の合計 5 か所の原状回復事業を実施いたしました。

大塩沢八森線の林道斜面の廃棄物については、村山地区不法投棄防止対策協議会の事業として、5月に原状回復作業を実施しました。昨年度からの継続事案でありましたが、今年度は林道斜面から人力やユニック車で引き上げる作業をおこない、2年かけてほぼ全量の廃棄物が撤去されました。回収された廃棄物は、コンクリートがら、タイル片、境界杭で、ほとんどが土嚢袋に入れられた状態でした。

当該地の原状回復作業につきましては、地域の皆様や村山地区不法投棄防止対策協議会のご協力により、廃棄物を撤去することができました。また、この他の4事案についても、地域の皆様からの通報等のご協力により、無事原状回復されております。今後も豊かな自然環境を保全していくため、引き続き皆様からのご協力をよろしくお願いいたします。

＜原状回復の様子＞



令和3年作業前



令和4年作業後



村山総合支庁
環境課

村山総合支庁 環境課からのお知らせ

【村山総合支庁で初のフードドライブを実施しました】

食品ロスに対する意識向上と食品ロス削減のため、10月の食品ロス削減月間及びやまがたSDGs推進月間にあわせて、10月12日（水）に村山総合支庁及び村山保健所、10月13日（木）に西村山地域振興局及び北村山地域振興局において、それぞれの庁舎に勤務する職員を対象にフードドライブ※を実施しました。

多くの皆様から食品を提供いただき、530点、重さにして266キログラムの食品が集まりました。13日の午後に贈呈式を行い、一般社団法人やまがた福わたし（フードバンク活動団体）に贈呈しました。集まった食品は、同団体を通じて食の支援を必要としている方に提供されます。

※家庭で買いすぎてしまったり、もらったけれど使う予定がない食品を集めて、食の支援を必要としている世帯や子ども食堂、福祉施設などに寄付する活動



村山総合支庁での様子
(テレビや新聞の取材を受けました)



村山保健所での様子



贈呈式の様子



集まった食品の数々

【秋期（10月19日～10月27日）の不法投棄防止合同パトロールを実施しました】

県では、10月に「不法投棄監視及び海岸漂着ごみ削減強化月間」を設けて、不法投棄防止などの広報・啓発及び監視活動を強化することとしております。

村山総合支庁では、市・町・衛生組織連合会、一般社団法人山形県産業資源循環協会会員と合同で、今年度に原状回復した地点や、南東北県境合同パトロールも兼ねて県境においても不法投棄箇所の確認などを行いました。この紙面をお借りしまして、改めて貴協会の御協力に対し、感謝申し上げます。



ごみ回収の様子（県境合同パトロール）

ごみのない美しいやまがたを実現するために、県民一丸となって取り組んでいきましょう！

◎フードドライブを開催 ～「もったいない」を誰かの「ありがとう」へ～

食品ロス削減月間にあわせて、令和4年10月20日及び21日に、最上総合支庁で初めてフードドライブ（P37※参照）を開催しました。

最上総合支庁及び最上管内8市町村役場の職員を対象に、未開封で賞味期限が1カ月以上残っており、常温可能な食品の提供を呼びかけたところ、お米、乾麺、レトルト食品、飲料、お菓子など714点、重さにして295kg（米138kgを含む）の食品が集まりました。

集まった食品は、一般社団法人やまがた福わたし（フードバンク活動団体）に提供しており、今後、同団体を通じて、主に最上地域で食の支援を必要としている世帯や子ども食堂等に寄付されます。

国内の食品ロスの量は、家庭系と事業系をあわせて年間約522万トン（令和2年度）と推計されており、これを国民ひとりあたりに換算すると、毎日お茶碗1杯分（約113g）の量に相当します。

県では、これからも食品ロスの削減等「ごみゼロやまがた」の推進に取り組んでまいります。



食品の提供式の様子



集まった食品



食品ロスを
減らすゼロ！

◎不法投棄防止啓発用のぼり旗の寄贈

一般社団法人山形県産業資源循環協会最上支部から不法投棄防止啓発“のぼり旗”64本を寄贈いただき、感謝申し上げます。

不法投棄防止キャンペーンでの使用や不法投棄場所への設置により、啓発や未然防止などに活用させていただきます。

【廃棄物適正処理・3R推進ポスターコンクールの受賞者決定！】

本誌第80号（令和4年度夏号）でお知らせしておりました「令和4年度廃棄物適正処理・3R推進ポスターコンクール」の審査会を開催し、受賞作品が決定しました。

今年は昨年とほぼ同数の、小中学生あわせて258作品の応募があり、審査員からは「オリジナリティのある作品や力作が多い」、「不法投棄や3Rについて関心が増していることが分かる」といったコメントをいただきました。

最優秀賞（2点）及び優秀賞（4点）の作品については今号の表紙及び裏表紙に掲載されていますので、是非ご覧ください。

受賞作品は不法投棄防止のための看板や啓発物品に活用します。多数のご応募、ありがとうございました。

（審査会の様子）



【りんごのおいしい季節】

最近、スーパーで「ふじ」が販売されていますね。担当Nはりんごが大好きなのですが、食べるたびに思い出す出来事があります。

昨年（令和4年）9月、市町を通じて、「リンゴのようなものが大量に捨てられており、熊の親子が食べているのを目撃した」旨連絡がありました。

現地に行ってみると、道路から1.5mほど登った林の中にリンゴやラ・フランスが捨てられていました。どれも小さく、おそらく摘果したものをコンテナなどに入れてわざわざ持ってきて、えっちらおっちら1.5m持ち上げて捨てたのでしょう。

本来、こういった事例では土地の所有者などに撤去をお願いしているのですが、熊を誘引して被害が発生するのを防止するため、調査に時間を掛けずに当課職員が全



て回収しました。その量、二日間で370kg！

片付けるのも当然大変でしたし、わざわざこんなところに持って来て捨てなければいいのに、と改めて思った出来事でした。

【担当のつぶやき】

令和4年4月から環境課に着任しました神田と申します。初の置賜勤務ということで若干緊張していますが、置賜支部のみなさま、よろしくお願いいたします<(_ _)>

さて、本職は大の釣り好きです。昨年5月に人生の目標の一つである尺アジ（1尺=30.3cmを超えるアジ）を初めて釣り上げました。

某会員の方からは、サビキ（針がたくさんある釣り方）に何匹も尺アジがかかり、重くて上げられないためわざとバラして（外して）釣り上げたという豪快な話をお聞きしました。本職などはまだまだひよっこですが今回はとてもうれしい体験でした。2050年に海洋中のプラスチックの量が魚の量を超えるとの推計が出ていますが、海洋ゴミを減らすよう、上流の置賜地域から頑張りたいと思います（釣りにより若干魚も減らしてしまいますがご容赦ください）。

昨今、ごみ拾いと生活の様々な場面とのコラボレーションするのがマイブームです。以前、釣りに行ったらごみ袋1つ分ごみを拾ってくることを紹介しましたが、最近はダイエットのためのランニングをしながらごみ拾いをしています。

ごみ拾いをするとスッキリしたいいい気分になれるんですね。皆様も、通勤や散歩など、日常生活とごみ拾いのコラボレーションを初めてみてはいかがでしょうか。



尺アジは4本でした！！



約30分のランニングで拾ったごみとマイトン

【理系公務員Sugarの愛した数式】

今年から新規採用職員として働いています理系公務員のSugarです。今回は自分が専攻していた数学についての小ネタを紹介したいと思います。いきなりですがみなさんに問題です。自然数（正の整数）をすべて足すといくつになると思いますか？ ∞ （無限）になると考えた方が多いと思いますがその答えでは半分正解です。かの有名な数学者オイラーは他の答えとして「 $-\frac{1}{12}$ 」になることを発見しました。なんでマイナスになるの？ありえない！と思った方は虚数の概念の渦巻く数学の世界に、ぜひ足を踏み入れてみてください！！

【「もったいない！進めよう3R」～地域ふれあい講座を開催しました～】

令和4年11月28日（月）、鶴岡商工会議所女性会研修会において、【「もったいない！進めよう3R」未来のためにできること】を演題に地域ふれあい講座を開催しました。

当日は『食品ロス』や『海岸漂着ごみ』、『瓦リサイクル』についてクイズや事例紹介を交えて説明しました。途中、担当がおっちょこちょいをしましたが…和やかに笑っていただきました。

「瓦リサイクルについて知らなかった。興味深い。」など沢山の感想をいただき、大変光栄でした。この講座が皆さんのエコな生活の一助になれば幸いです。

皆さんの地域の集まりにふれあい講座はいかがですか？どうぞお気軽にお申し込みください！

◆お申し込みは「庄内総合支庁 地域ふれあい講座」で検索🔍



【「環境フェアつるおか2022」に参加しました】

「第24回環境フェアつるおか2022」が令和4年9月25日（日）に鶴岡市小真木原総合体育館において行われました。

当課も「海岸漂着ごみ問題」・「瓦のリサイクル」に係るブース運営と、鶴岡市廃棄物対策課と

の共同による「フードドライブ」の実施で参加しました。

海岸漂着ごみブースでは、「ごみを釣り上げて海をきれいにしよう！」と、実際に漂着したごみを、竹竿で釣り上げるゲームを行いました。開始と同時に大勢の子供たちに並んでいただき、準備した景品（貝殻で作るアクセサリキット、貝殻等）があつという間に無くなってしまうという、うれしい誤算もありましたが、何とか無事に終えることが出来ました。

天気にも恵まれ、会場は家族連れなど、大勢の来場者で賑わっていました。様々なブースで見たり、聞いたり、体験したりすることで、環境について考える時間を過ごしていただけたと思います。



環境フェアつるおか・2022「ごみを釣り上げて海をきれいにしよう」

【(単発企画) したっぱ技師の実家お片付け日誌・農作業小屋編】

私の実家には古い農作業小屋があります。至るところから雨漏りするうえ、どこからともなく侵入したツタがはびこり、解体される日はそう遠くないでしょう。

ただし、解体するには大問題があります。その小屋の中にはここ数十年の内にため込まれた種々雑多な品物が残ったままなのです。

読者の皆さんもご存じのとおり、解体家屋内の残置物は一般廃棄物として排出者の責任で処理しなければなりません。日々業者の方々に指導している身ですので、廃棄物処理法を順守のうえ、ここ半年ほど暇を見つけてはこつこつ片付けを続けているところです。

さて、片付けを続けていると実に様々なものが見つかります。

数えきれないほどの段ボールと発泡スチロール箱との闘いから始まり、劣化して粉々になったビニール袋、古紙の山に紛れていた記念写真、祖母が使い余した園芸道具、亡くなった祖父と一緒にあたった薪ストーブの残骸、等々……。

懐かしいものが見つかるたび、片付けの手が止まってしまいます。私が小屋を片付け終えるのはまだまだ先のようにです。



村 山 支 部 ①

事業名 行政懇談会

日時 令和4年9月2日（金） 15:00～17:00

場所 村山総合支庁 2階 講堂

参加者 村山総合支庁 保健福祉環境部 環境課 原田廃棄物対策主幹 他3人
山形市環境部 廃棄物指導課 三澤産業廃棄物係長 他1人
村山支部 片桐支部長 他11人

内容 片桐支部長、原田主幹、三澤係長の挨拶に続き出席者の自己紹介を行い、意見交換を行いました。

議題

1 建築物等の解体工事における石綿事前調査について

2 村山支部からの意見要望について

- ① 農業用廃プラスチックについて
- ② 県外廃棄物放射能測定について
- ③ 産業廃棄物収集運搬の支援について
- ④ 県外産業廃棄物の事前協議について
- ⑤ 実績報告書の電子化について
- ⑥ 許可証更新における有効期限について
- ⑦ その他

コメント 今年村山総合支庁保健福祉環境部様より、解体工事における石綿事前調査についての説明があり、また支部意見として新型コロナウイルスに関連する意見や、ITシステムを活用した提出書式の改善、法の規制強化など、支部役員からは多くの意見や要望について活発な意見交換が行われました。

村 山 支 部 ②

事業名 村山支部 視察研修

日時 令和4年11月9日（水）～10日（木）

場所 東京都江東区有明 東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

参加者 村山支部 11人

内 容 防災体験学習施設の見学

コメント 今年の視察研修は東京都江東区にある、そなエリア防災体験学習施設へ行ってきました。テーマは直下型地震が発生し、生存時間の72時間をどう生き抜くか。施設内は臨場感に溢れ、ビルや建物が崩れ、サイレンが鳴り響き、全員がパニック状態に。まさに絶体絶命の危機！我々は最後まで生き抜くことができたのか？

この研修において、災害時の知恵や防災グッズの備え、また私たち業界における役割など、再確認できた素晴らしい研修となりました。



最 上 支 部

事業名 研修会・行政懇談会等

日時 令和4年11月9日（水） 10:30～11:50

場所 ゆめりあ2F会議室（最上広域交流センター）

参加者 最上総合支庁 保健福祉環境部 環境課 田中課長
新庄警察署 生活安全課 坂本課長
最上支部 斎藤支部長、支部会員等 28人

内 容 1 研修会

山形県新庄警察署：生活安全課長 坂本 晋伍 氏より
「防犯と安全対策について」

主な内容

(1)県内の空き巣等の被害の9割は無施錠。

自宅にカギをかける習慣があまりなく、空き巣だけではなく住人が
家の中にいるにも関わらず住宅に侵入する「侵入窃盗」事件が多発。
いずれも鍵をかけていれば防ぐことができた。

(2)薬物乱用

最近はSNS等で、誰でも簡単に手に入れることができる。

薬物乱用を未然に防ぐため、国・県・関係団体が連携し、特に青少
年を中心に危険性・有害性を正しく認識してもらおうと啓発活動に力
を入れている。

(3)特殊詐欺被害

被害にあわないための対策としては「犯人と電話で話さない事」で
留守番電話の設定や不信なことがあれば家族に確認するなどが有効。

(4)CSR“企業の社会的な責任”について

地球温暖化など環境問題が深刻化したことも背景にあり、企業が影
響をおよぼす範囲も広がっている。そこで企業が、社会や環境への自
主的な配慮を事業活動としたCSRの取組を行い事業者のPRに活用して
みてはどうか。

(5)やまがた110ネットワーク
の活用をお願い

県内の交通事故・取締り
の情報や行方不明者の捜
索・クマ出没の情報等さま
ざまな情報がリアルタイム
で発信されるので是非登録
してほしい。



2 行政懇談会

テーマ：アスベストについて

最上総合支庁 環境課 田中恵子環境対策専門員より資料を基に説明
“解体工事などに係る石綿飛散防止、石綿などの処理について”

主な内容

(1)石綿、石綿含有建材について

(2)解体工事等に係る石綿飛散防止（大気汚染防止法）

石綿事前調査の実施・県への報告、作業記録の保存、直接罰の創設

※建設物等の解体等に係る石綿被ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル：令和3年3月厚生労働省、環境課

(3)廃石綿等の適正処理（廃棄物法処理法）

一部の石綿含有建材の収集運搬・処理方法の強化

※石綿含有廃棄物等処理マニュアル（第3版）：令和3年3月環境省

◎建築物等の解体工事等における石綿の飛散を防止するため、大気汚染防止法が改正されるとともに、廃石綿等の処理についても規制が強化された
※令和3年4月・令和4年4月

◎令和5年10月1日より、解体工事の石綿事前調査は有資格者でなければならない

※資格取得等の準備も必要となります。

〈質疑応答等〉

規制によりコストが高騰しているが県からの補助金はないのか。

⇒県としても予算がない。

産廃税の税収について、使いみちはどうなっているのか。

⇒3R推進に使用（3Rに対する研究開発・再生エネルギー導入の補助・人件費・不法投棄対策への補助金等）。

短い時間でしたが有意義な懇談会でした。



3 不法投棄防止の“のぼり旗”寄贈

今年度も、新庄最上地区不法投棄防止対策協議会に“のぼり旗”64枚（ポール付）を寄贈いたしました。

令和4年度の支部研修会兼行政懇談会終了後に環境課の田中課長に斎藤支部長が“のぼり旗”を手渡し贈呈式といたしました。最上支部では平成19年度より不適正処理監視活動として不法投棄防止を呼び掛ける“のぼり旗”を作成し、近年は新庄最上地区不法投棄防止対策協議会に寄贈し不法投棄原状回復作業後の再発防止のために設置いただいております。



置 賜 支 部

事業名	行政懇談会		
日時	令和4年9月16日（金）10：00～11：30		
場所	置賜総合支庁 本庁舎 501会議室		
参加者	置賜総合支庁 保健福祉環境部 環境課 鍵水課長 等5人、 置賜支部 松木支部長、役員・処分業者 12人、 計17人		
内容	「行政からの伝達・報告」 ・廃棄物処理の動向 ①災害廃棄物の処理について ②その他 ・不法投棄防止対策について ・その他 「支部からの意見等」 ・バイオプラスチックの処分方法について ・燃料高騰による業界に対する補助金のお願い ・太陽光パネルのリサイクルに対する補助金は考えているか ・最近増加している廃品回収ヤードを今後も注視してほしい ・解体家屋のアスベストの調査が必須になった事について周知を徹底してほしい ・優良事業者の更新等の事務手続きが非常に煩雑 ・県の施設にもかかわらず廃棄物処理を無料でやってほしいと頼まれたので是正してほしい		



庄 内 支 部

事業名 1 行政懇談会

日時 令和4年10月27日（木）13：30～14：30

場所 いろり火の里「なの花ホール」

参加者 庄内総合支庁 保健福祉環境部 環境課
後藤課長、澤廃棄物対策専門員、伊藤技師
庄内支部 渡部支部長、役員 8人

内 容

- ・太陽光パネルの廃棄処分リサイクルについて
- ・PCB廃棄物について
- ・災害廃棄物について
- ・最終処分場や焼却施設について



コメント 庄内総合支庁環境課様からは、太陽光パネルの廃棄処分の今後の動向や、PCB廃棄物の状況等の説明があり、様々な意見交換ができた良い機会となりました。

事業名 2 視察研修

日時 令和4年11月29日（火）～11月30日（水）

場所 東京都江東区有明 東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

参加者 庄内支部 9人

内 容 防災体験学習施設内見学

コメント この度の施設見学で災害の怖さを再認識致しました。地震発生後国や自治体の支援体制が整う72時間をいかに生き抜くかが重要で、日頃から防災意識を高めることと、具体的な対応方法を身に付けておくことが重要であると感じました。

今回の視察で得た知識や備えを会社や家庭においても共有し、有事の際に役立てていきたいです。





全産連青年部協議会 第12回カンファレンス in 岐阜の開催について

青年部会 部会長の遠藤一生です。

令和4年11月14日に「第12回カンファレンスin岐阜」が開催されましたので、ご報告させていただきます。

今回のカンファレンスは「会員拡大」をテーマに話し合いを行いました。事前に課題等のアンケートを実施し、情報を集約。データ化した内容を元に各都道府県の部会長がグループディスカッションを行い、部会長同士の交流を図るとともに、それぞれの悩みや強みなどを話し合うことで、それぞれの都道府県にあった会員拡大のヒントを持ち帰る形式となりました。

集約されたアンケート結果の一部は、次のとおりです。

- ・5年間の増減傾向として17の県で会員数減少（山形県含む）。
- ・会員数が減少している県の6.3%が会員の獲得が不必要と回答。
- ・会員が増加している県の41.2%が現在の会員数に不満と回答。
- ・平均年齢は41.8歳。年齢制限は48.6歳。その差が6.8年。

残された6.8年で各都道府県がどのように会員数を増やしていくか？各都道府県の青年部会員所属数は10～85人とさまざまです。会員数に正解はなく、何人以上必要という基準はありません。

本県の青年部会は、会員数は減少傾向にあるものの、アクティブ会員率が高く、事業への参加率は全国でもトップクラスです。しかし、現状の会員数の減少は、数年で資金難に繋がり活動範囲の減少になります。青年部会としても引き続き会員拡大の問題を協議していきたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



新入部会員の紹介

(敬称略)

土 屋 和 也	有限会社ツチヤクリーン（天童市）
種 村 誠	株式会社キヨスミ産研（山形市）



会員へのマニフェスト送料無料と 建設マニフェスト頒布価格据え置きについて



1 会員へのマニフェスト送料無料化

令和5年1月4日から無料

(一般(会員外)への送料は、燃料代高騰等により値上げ改定しております。)

2 会員への建設マニフェスト頒布価格据え置き

令和5年度は価格据え置き

<建設系廃棄物管理票頒布価格>

種 類	会 員	一般(会員外)
単 票 (100セット/箱)	2,500円	2,700円
連続票 (500セット/箱)	12,500円	13,500円

インボイス制度関連の取組みについて

令和5年10月1日から、適格請求書等保存方式(インボイス制度)が開始されることに伴い、会員の皆様に理解を深めていただくため、令和4年12月、冊子2冊を当協会より配付いたしました。当協会でも、マニフェスト頒布に係る適格請求書を発行いたします。登録番号等は改めてお知らせします。



インボイス発行事業者の登録を受けるかどうかの判断は…

登録を受けるかどうかは事業者の任意です

1 買手からインボイスを求められるか検討する。

- 課税事業者である買手は、仕入税額控除のため、貴社(売手)が交付するインボイスが必要です。
- 買手が消費者、免税事業者、または課税事業者であっても、簡易課税制度を選択している場合はインボイス不要です。

2 インボイスを交付する場合としない場合について検討する。

- インボイスを交付するには、登録手続きのほかに、課税事業者として消費税の申告が必要です。
- 登録しない場合は、インボイスは交付できませんが、課税事業者としての申告は不要です。買手は、経過措置により、一定期間は仕入税額の一部を控除することが可能です。

3 インボイスを交付する場合は、登録申請書を提出する。

- 令和5年10月1日のインボイス制度開始からインボイスを交付する場合は、令和5年3月31日までに、登録申請手続きが必要です。

国税庁 HP「適格請求書等保存方式の概要-インボイス制度の理解のために」を一部・引用



免税事業者の方や、取引先が免税事業者である場合の対応に関する考え方については、関係省庁連名で、令和4年1月19日付「免税事業者及びその取引先のインボイス制度への対応に関するQ&A」(財務省・公正取引委員会・経済産業省・中小企業庁・国土交通省)が公表されていますので、参考してください。





許可更新に伴う追加講習会等の開催について



令和4年度の本県での追加講習会の開催はありません。

令和5年度、許可更新に該当する会員の方で、まだ講習会の受講が済んでいない方は忘れずに令和5年度の講習を受講してください。日程は令和5年3月中旬に公表予定です。

また、更新許可申請は許可有効期限の2カ月前から、総合支庁環境課、山形市の許可の場合は、山形市廃棄物指導課で受け付けますので、お早めに手続きを行ってください。

協会事務局よりメールアドレス登録のお願い

当協会では、情報提供の方法として、電子メールでの配信を進めております。

メールアドレスの登録がまだお済でない会員様は、ぜひ次のアドレスまでメールを送信くださるようお願いいたします。

登録方法のご案内

- ①タイトルに「メールアドレス登録」と入力
- ②本文に「御社名」「御担当者名」「電話番号」を入力して送信

タイトル : 「メールアドレス登録」

本文 : 御社名 御担当者名

電話番号

以下のメールアドレスにお送りください。

送信先 : info@yamagata-sanpai.or.jp まで



家電リサイクルについて

Q. 産業廃棄物収集運搬許可業者が、事業所で排出された廃家電4品目を、指定取引場所まで運搬する際に、委託契約、マニフェストは必要ですか？

A. 必要です。

排出場所から指定取引場所までの、収集運搬委託契約を締結してください。産業廃棄物管理票（マニフェスト）も必要です。



（一般財団法人家電製品協会ホームページより）

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について

〔令和4年 7－9 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会から、今年度第2四半期（7－9月期）の調査結果が公表になりましたのでお知らせします。

- 調査回答社 各都道府県協会会員企業 381 社（内、山形県協会13社）

※調査は令和4年10月に各協会から会員企業への依頼により実施。

- 景況感 DI 今 期 ▲15（北海道・東北 ▲11）
来期見通し ▲18（北海道・東北 ▲25）

↓

【景況感DI（今期）の主な内訳】

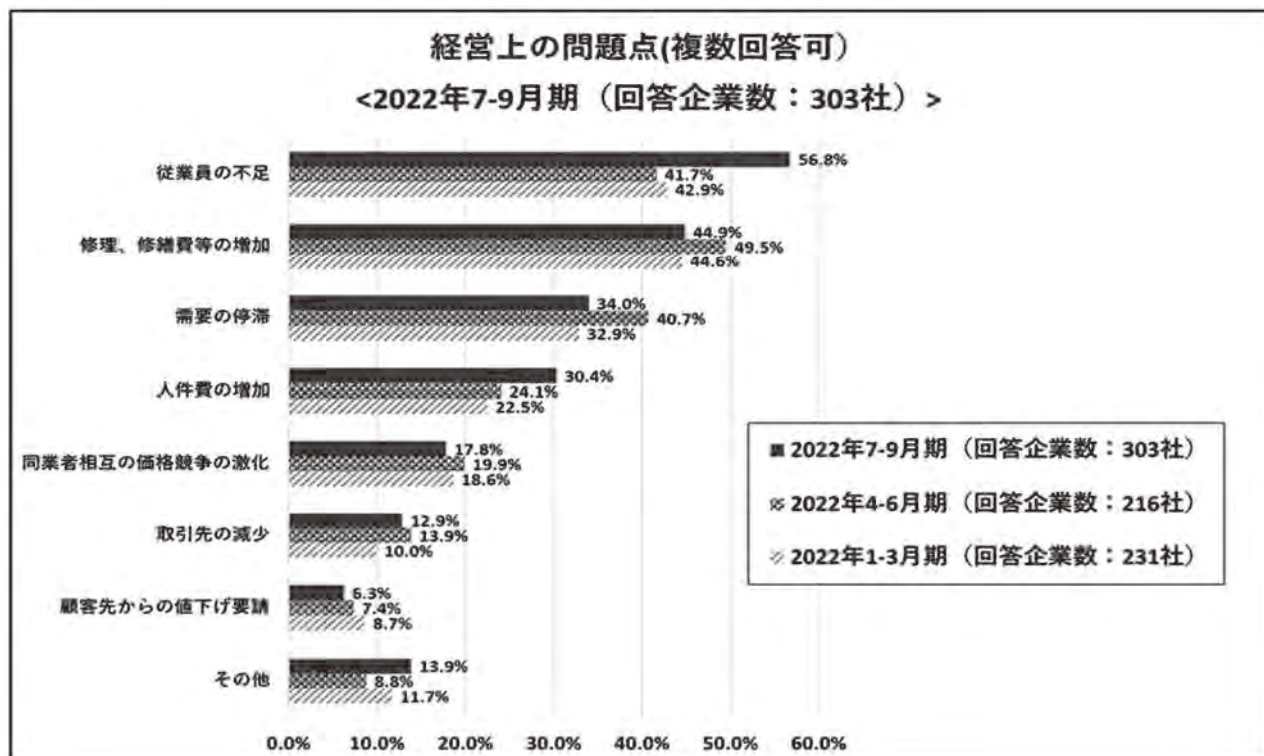
マイナス項目 処理量▲12、営業利益▲8、売上高▲7、従業員数▲6

プラス項目 契約単価／収集運搬3（前期比▲8）、同／処分7（前期比▲2）

【DI とは】

ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」・「増加」したなどとする企業割合から「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値をいう。

- 経営上の問題点は次のとおり。「従業員の不足」の回答割合が増加したほか、特記枠に3期続けて燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

2022年はFIFAワールドカップ カタール大会で大いに盛り上がりました。日本が、そしてアジアの国が世界の強豪国を相手に逆転勝利を収めるなど、最後まで目が離せない試合展開に一喜一憂し感動をいただきました。

2022年の「今年の漢字」は『戦』が選出されました。理由はまさにスポーツでの熱「戦」、挑「戦」もありますが、ロシアのウクライナ侵攻により「戦」争の恐ろしさを目の当たりにした一年だった事、円安物価高による生活上での「戦」などがあったとの事です。コロナ政策が徐々に緩和され、以前の日常に戻りつつも、世界の情勢変化の影響もあり思うように行かないものだと実感します。

昨年末に「新時代」の到来を魅せてくれた“SAMURAI BLUE”の勢いにあやかり、発想と衆知を結集して新しい景色を見たいものです。

2023年が「ブラボー」な一年になりますことを願います。

編集委員会委員 登坂 誠



◆ 循環やまがた編集委員 ◆

編集委員長	岡 崎 信 広	有限会社 岡崎清掃社
編 集 委 員	蛇 子 幸 治	株式会社 こすもす清掃
	大 宮 拓 也	株式会社 クレンズ興産
	斎 藤 健	株式会社 マルコウ環境
	西 原 政 範	有限会社 中央清掃
	登 坂 誠	株式会社 登坂商店

大切な人へ、 確かな安心・安全をお届けします。

私たちの暮らしを豊かにするために、科学はあらゆる面で役立てられてきました。

一方で、豊かさの追求を優先するあまり、自然環境に歪みを生じさせ、

私たちの暮らしにも影響がでています。

私たち日本環境科学は、これまで培ってきた分析技術と豊富な経験を活かしながら、

安心できる食生活、安全な生活環境の構築に貢献してまいります。

調査・コンサルタント

Survey / consultant

- 環境アセスメント
- 生活環境調査
- 作業環境測定
- アスベスト調査
- 騒音・振動測定
- 土壌汚染対策
- 地質調査
- 大規模小売店舗立地法
- その他の環境調査



環境分析・測定

Environmental analysis / measurement

- 廃棄物分析
- 水質分析
- 土壌・肥料
- 大気分析・悪臭測定
- 温泉分析



放射能測定

Radioactivity measurement

- ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線測定



食品検査

Food inspection

- 残留農薬検査
- 動物用医薬品検査
- 栄養成分検査
- その他



日本環境科学株式会社
JAPAN ENVIRONMENT SCIENCE CO., LTD.

〒990-2346 山形市高木6番地

TEL.023-644-6900 FAX.023-644-6908

<http://www.jesc-y.jp>

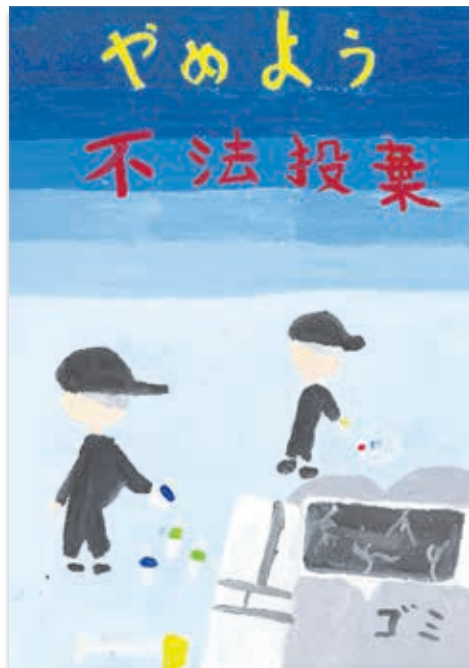
E-mail: jesc@jgd.jp



優秀賞

「自然を守れ! ポイ捨て禁止」

南陽市立宮内小学校 5年 黒沼 結奈さん



優秀賞

「やめよう不法投棄」

高畠町立亀岡小学校 4年 二瓶 楓南さん



優秀賞

「私たちの手で美しい環境へ」

米沢市立第二中学校 3年 今井 奈々さん



優秀賞

「自然と資源を大切に」

米沢市立第二中学校 3年 芳賀 理乃さん

※この作品は「令和4年度廃棄物適正処理・3R推進ポスターコンクール」(P39 参照)で最優秀賞(表紙2点)と優秀賞(4点)に輝いた4作品です。

循環 **やまがた** 81号
令和5年1月発行

編集:『循環やまがた』編集委員会
発行:一般社団法人山形県産業資源循環協会

〒990-0041
山形市緑町一丁目9-30 緑町会館6F
TEL.023-624-5560 FAX.023-624-5360
編集協力・印刷:コロニー印刷(山形福祉工場)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



VEGETABLE
OIL INK

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。